

〈特集〉

コレクション  
ノアの方舟—蒐集による作品たち

Noah's ark Works based on Collection

2014年 3月22日(土) - 7月6日(日)



1. 東山嘉事 《題名不詳(赤い円2)》 2003年

※画像使用は、著作権者への申請が必要です。

## 展覧会趣旨

本展は、ものを集めるという人間の行為に着目し、それに関連する表現を取り上げています。

世界中の事物やイメージを自らのもとに集めようとする人間の志向は、古くから神話などの題材になってきました。本展のタイトル、『旧約聖書』第一書「創世記」の一節「ノア方舟」も、その代表的なものの一つです。神が引き起こした大洪水に際し、ノアは地上のあらゆる動物のつがいと巨大な船に集め、水が引くのを待ちます。それは生きものの命をつなぎ、そこから新たな世界を創りだすための再生の物語でもありました。

この「ノア方舟」の物語を、ものを体系的に蒐集するという意味に捉え、当館の所蔵品の中でも特にものやイメージを集めることがその要素として重要と思われる作品、あるいは、当館に収蔵された個人蒐集家によるコレクションをとりあげ、それぞれの蒐集の意味を解き明かしていきます。そのことによって、さらには「ノア方舟」をその原型とするとも考えられる現代の美術館・博物館の意味を捉える試みでもあります。人はなぜ、何を目的にして集めるのか。様々な姿を変えて表れる蒐集の形を通して、それを考えてみたいと思います。

## 会期等

2014年3月22日(土)～7月6日(日)

休館日：月曜日

※5月5日(月・祝)は開館、5月7日(水)は休館

開館時間：10:00～18:00

※特別展開催中の金・土曜日は夜間開館(20:00まで)

※入場は閉館の30分前まで

次の日程で一部作品の展示替えを行います

前期：3月22日(土)～5月11日(日)

後期：5月13日(火)～7月6日(日)

会場：兵庫県立美術館 常設展示室(1階・2階)

主催：兵庫県立美術館

## 県美プレミアム

兵庫県立美術館では、前身の兵庫県立近代美術館の時代より、40年以上にわたって作品収集を行い、収蔵された作品数は9,000点以上に及びます。

当館1階と2階の展示室で開催される「県美プレミアム」では、年3回の展示替えを行いながら、収蔵品によるテーマ展・館外作品を中心とした小企画展を開催します。

その他、神戸ゆかりの洋画家、小磯良平と金山平三の記念室、さらに近現代の彫刻／安藤忠雄コーナーとあわせてお楽しみください。

### 展示室1～4

〈特集〉

コレクション

「ノア方舟－蒐集による作品たち」

Noah's ark Works based on Collection

第1章 博物誌から

第2章 イメージのアッサンブラージュ

第3章 アイデンティティ蒐集としてのポートレイト

第4章 O氏コレクション－ある蒐集家の像

第5章 蒐集による象徴

第6章 総合芸術作品

### 展示室5

近現代の彫刻／安藤忠雄コーナー

### 展示室6

近現代洋画・日本画の名品

### 小磯良平記念室

### 金山平三記念室

## 観覧料

[3月30日まで]

一般：500(400)〈300〉円 大学生：400(320)〈240〉円

高校生・65歳以上：250(200)〈150〉円 中学生以下：無料

[4月1日以降]

一般：510(410)〈306〉円 大学生：410(330)〈246〉円

高校生：260(210)〈156〉円 65歳以上：255(205)〈153〉円

中学生以下：無料

( )内は20名以上の団体料金

〈 〉内は特別展とのセット割引料金

※障がいのある方とその介護の方1名は各観覧料金の半額

(65歳以上は除く)

## 展覧会構成

### 展示室1

#### 第1章 博物誌から

タイトルにある「博物誌」は自然界の事物・現象を総合的に記述した書物の総称です。本章ではそれを拡大解釈して、人工物を含めた物を集めた作品を紹介します。我々の身の回りにはある物は、作家によって集められ、作品に組み込まれることで新たなイメージをつくり出し、それまでとは異なる意味を持ち始めます。

小野和則の〈時間採集〉シリーズは、イタリア在住時の自作を帰国してから作家自身が当時を回顧しながら箱に詰めたアルバムのような作品です。箱の中にはものだけでなく、作家が過ごした時間も納められているのです。また、河口龍夫の〈関係—種子〉シリーズでは、様々な種子が鉛板に封印されています。放射能の遮断に用いられる鉛にまもられた、目には見えない種子を思うとき、現代の我々は切実な思いに駆られるのではないのでしょうか。

### 展示室2

#### 第2章 イメージのアッサンブラージュ\*

本章では世の中に溢れる写真や映像を引用し、一つの画面に落とし込んだロバート・ラウシェンバーグと横尾忠則の作品を取り上げます。

ラウシェンバーグのシリーズ作品〈トリビュート21〉は、世界の文化に貢献し、21世紀に建設的な影響を与える23人へのオマージュとして作られたものです。ここでは対象となる人物と必ずしも直結しない複数のイメージが並存しています。しかしこの異質なイメージの暴力的な並存こそ、ラウシェンバーグが表現する近代都市のリアリティでした。

横尾は映画、広告イメージ、名所絵葉書、ポルノから過去の名画にいたるまで、あらゆるイメージを自らの画面に同等に取り込みます。この猥雑なイメージの群れは横尾の画面構成力によって、混沌とした状態を保ちつつ視覚に迫る力を持ちえているといえるでしょう。

※アッサンブラージュ：「寄せ集め」の意味。既製品や廃品を集めて制作された作品、およびその手法のこと。



2.小野和則 《時間採集 OBG-923》 1984年  
 ※画像使用は、著作権者への申請が必要です。



3.横尾忠則 《SUNTORY WHISKY》 1978年  
 ※画像使用は、著作権者への申請が必要です。

**展示室3北**

**第3章 アイデンティティ蒐集としてのポートレート**

人間の身体がマイクロコスモスであるとはよく言われることですが、精神の面でも一人の人間には様々なアイデンティティが潜在的に宿っているのではないかと、そう思わせる作品を本章では紹介します。

一人の人間がモデルになっていても、服装や髪型、化粧を変えるだけでまったくの「別人」になりうることを、セルフポートレートの手法を用いて表現するのが澤田知子です。街なかのスピード写真機で自らを捉えた《ID400》で、彼女は個人を特定するものであるはずの証明写真をアイロニカルに転用しています。



4. 澤田知子 《ID400》(部分) 1998年 © TOMOKO SAWADA, courtesy MEM  
 ※こちらの画像、8点組の作品《ID400》のうちの2点です。  
 4a、4b どちらか単独でご使用いただいても結構です。

**展示室3南**

**第4章 O氏コレクションーある蒐集家の像**

本章で取り上げるのは、何かを集めて作品にしたものではなく、作品を集めて一つのコレクションをつくり出す蒐集家という存在です。

作品はすべて森村泰昌によるもの。彼は日本人である自分が西洋名画に入り込む、あるいは日本人男性である自分が欧米の映画女優としてフィクションの世界に入り込むという手法で、自分の存在を問う作品を手がけています。

その作品に惚れ込み、一大コレクションを築いたのが蒐集家O氏です。同コレクションは、オブジェなど森村の作品としては珍しい、しかし作家の持ち味をよくつかんだ良品を揃えていることを特徴とします。

個人の嗜好や知識を反映したこのようなコレクションは、それを集めた人間をもあらかず趣があるといえます。



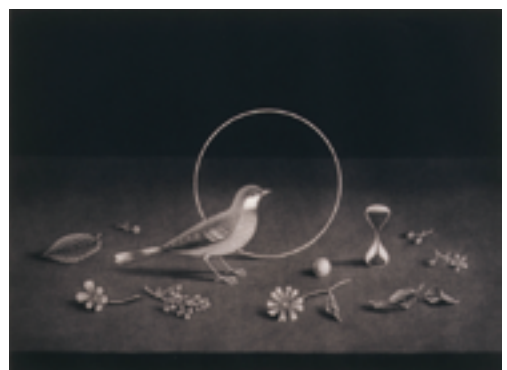
5. 森村泰昌 《肖像(ゴッホ) / 小》 1985-1992年  
 ※画像使用は、著作権者への申請が必要です。

**展示室3南**

**第5章 蒐集による象徴**

長谷川潔の円熟期のシリーズ作品〈マニエール・ノワール〉は、描かれた対象の一つ一つに象徴的な意味が込められています。それが画面の中に集合し、配されることで、一つの作品は絵であると同時に、物語を紡ぐ詩にもなっています。

具体的な事物を集めることで抽象的な事象を描き出す長谷川の幻想絵画は、見る者の思考の飛躍を促します。漆黒の中に浮かび上がる静物や生き物たちが秘めるメッセージを読み解いてみましょう。



6. 長谷川潔 《静物“時”》 1969年  
 ※画像使用は、著作権者への申請が必要です。



展示室4

第6章 総合芸術作品

造形芸術、音楽、ダンス、詩など、諸芸術を総合することを目指した「総合芸術作品」は、芸術という枠すら踏み超え、世のあらゆるものを幻視的に形づくる可能性を含んだ考え方です。

野村仁の〈'Grus' Score〉(鶴座の譜) シリーズでは、まず飛翔する鶴の群れをカメラで捉え、その形を音符に見立てて五線譜に落とし込むことで、写真作品とともに一つの楽譜が作られ、さらにその曲を演奏することでそれぞれ関連する形と音による作品が生まれます。そしてそれぞれの曲には、元になる写真の空の色と対応した鉱物の名がつけられています。自然界の造形を写してできた音の調和を聞くと、宇宙の神秘を感じずにはられません。

展示室5

近現代の彫刻／安藤忠雄コーナー

当館の収集の柱のひとつである彫刻から、ロダンをはじめとする海外作家が手がけた、さまざまな人体表現を紹介します。

また当館の設計者である建築家・安藤忠雄の関西でのプロジェクトを模型、写真、映像などで紹介するコーナーを併設します。

展示室6

近現代洋画・日本画の名品

春から初夏にかけての本展開催にあわせ、この季節を主題にした作品を前期・後期に分けて展示します。前期では、日本洋画壇草創期の画家、斎藤与里の《春》や、上村松園の気品溢れる美人画《桜狩り図》などを出品します。

小磯良平記念室

神戸生まれの小磯良平(1903-1988)は、近代洋画を代表する巨匠のひとりです。確かなデッサン力に裏打ちされた気品あふれる婦人像は、現在も高い人気を誇っています。《T嬢の像》、《肖像》、《斉唱》といった代表作を中心に、寄託品もあわせてご覧いただきます。



7.野村仁  
 《'Grus' Score 010 Feb. 11, 2004 07:21》  
 2004年



8.野村仁  
 《'Grus' Score 010 or Lapis Lazuli》  
 2004年

※7.8の画像使用は、著作権者への申請が必要です。



9.オーギュスト・ロダン 《痙攣する大きな手》 1889年



10.斎藤与里 《春》 1918年

## 金山平三記念室

神戸生まれの金山平三（1883-1964）は、風景画の名手として知られる近代洋画の巨匠です。落ち着いた色づかいと巧みな筆さばきによって、信州や東北など日本各地の風景を情感豊かに描き出しました。この記念室では、《大石田の最上川》をはじめとする代表作を選び出し、金山の画業を紹介しています。

## 広報用画像について

このプレスリリースに掲載されている画像データをプレス掲載用にご用意しております。

※画像番号 **1～3**、**5～8** の使用につきましては、別途、著作権使用承諾の申請が必要となります。（著作権使用料に関しては当館までお問合せください）

## お問い合わせ先

### 兵庫県立美術館

〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1-1-1

代表 TEL: 078-262-0901 FAX: 078-262-0903

〈特集〉「**ノアの方舟**—コレクション蒐集による作品たち」

担当学芸員: 河田亜也子・相良周作

TEL: 078-262-0909 FAX: 078-262-0913

### 取材・写真提供に関すること

営業・広報グループ

TEL: 078-262-0905 FAX: 078-262-0903

## 交通案内

阪神岩屋駅（兵庫県立美術館前）から南に徒歩約8分

JR神戸線灘駅から南に徒歩約10分

阪急神戸線王子公園駅から南西に徒歩約20分

神戸市バス・阪神バス「県立美術館前」下車すぐ

地下駐車場: 乗用車80台収容・有料

\*ご来館はなるべく電車・バスをご利用ください

\*団体バスでお越しの場合は、バス待機所の予約をお願いします



11. 金山平三 《一番橋》 1954年

## 関連事業

### こどものイベント

6月14日(土) 10:30～15:30

要実費

要申込: こどものイベント係 TEL 078-262-0908

### 学芸員によるギャラリートーク

4月26日(土)、6月21日(土)

16:00～(約40分) エントランスホールに集合

参加無料・要観覧券

### ミュージアム・ボランティアによるガイドツアー

会期中の金・土・日曜日 13:00～(約45分)

エントランスに集合 参加無料(内容により要観覧券)

## 同時開催の展覧会

フルーツ・オブ・パッション

ポンピドゥー・センター・コレクション

1月18日(土)～3月23日(日)

夢見るフランス絵画

印象派からエコール・ド・パリへ

4月12日(土)～6月1日(日)

## 横尾忠則現代美術館での同時開催 ※

横尾忠則の「昭和NIPPON」— 反復・連鎖・転移

1月25日(土)～3月30日(日)

横尾探検隊 LOST IN YOKOO JUNGLE

4月12日(土)～6月29日(日)

※特別展又は、県美プレミアムの有料チケット半券のご提示で、団体割引料金でご覧いただけます。(詳細はHPなどでご確認ください)

コレクション  
 〈特集〉「ノアの方舟―蒐集による作品たち」

兵庫県立美術館  
 県美プレミアム  
 収集品によるテーマ展

広報画像申込書

営業・広報グループ 宛 FAX (078) 262-0903

兵庫県立美術館 〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通 1-1-1 TEL (078) 262-0905 (直通)

ご希望の画像の番号に○をつけてください。後日データ (.jpg) をお送りいたします。

番号	作家名・作品名・制作年・所蔵館など
1 (著作権)	東山嘉事 《題名不詳 (赤い円 2)》 2003 年
2 (著作権)	小野和則 《時間採集 OBG-923》 1984 年
3 (著作権)	横尾忠則 《SUNTORY WHISKY》 1978 年
4a	澤田知子 《ID400》(部分) 1998 年 © TOMOKO SAWADA, courtesy MEM
4b	
5 (著作権)	森村泰昌 《肖像(ゴッホ) / 小》 1985-1992 年
6 (著作権)	長谷川潔 《静物“時”》 1969 年
7 (著作権)	野村仁 《‘Grus’ Score 010 Feb. 11, 2004 07:21》 2004 年
8 (著作権)	野村仁 《‘Grus’ Score 010 or Lapis Lazuli》 2004 年
9	オーギュスト・ロダン 《痙攣する大きな手》 1889 年
10	斎藤与里 《春》 1918 年
11	金山平三 《一番桜》 1954 年

※上記画像を媒体掲載される際には、記載の**作家名・作品名・制作年**などを必ず入れてください。

※画像データ使用は、本展覧会の紹介用のみとさせていただきます。それ以外での使用はできません。ご了承ください。

※画像番号 1〜3、5〜8 の使用につきましては、別途、**著作権者への申請**が必要となります。

(作品によっては、**著作権使用料**の必要なものもございますのでお問合せください。)

貴社名			
媒体名	新聞・雑誌・ミニコミ TV・ラジオ・インターネット		
ご担当者名			
ご住所	〒		
電話番号		FAX	
メールアドレス	@		
URL			
掲載・放送予定日			
画像到着希望日			
読者・視聴者プレゼント用招待券 (最大 10 組 20 名まで 本展を媒体でご紹介いただける場合に限り)	組	名	分希望

※本展に関する記事をご掲載いただきました際には、お手数ですが、掲載誌・紙または記録媒体 (VTR/DVD) などを、上記営業・広報宛にお送りくださいますようお願いいたします。

※本展覧会場での取材、撮影をご希望の場合は、上記までご連絡ください。事前にご連絡のない取材・撮影はお断りいたします。